

T | K | K | メ | ル | マ | ガ | vol.29

～目次～

- 【1】TKK活動
- 【2】関連団体の活動
- 【3】行政等の活動
- 【4】特集:この1年の活動を振り返って(TKK加盟団体)
 - ①高次脳機能障害家族会「クローバー」
 - ②一般社団法人交通事故被害者家族
 - ③高次脳機能障害者と家族の会



【1】TKK活動

* *

●<TKK主催 第3回 高次脳機能障害者と家族のための「ピアサポート研修会」>(TKK内相談支援関係向け)
1月18日(日)午前、東京慈恵会医科大学附属第3病院2階会議室
==== ①講師:安仁屋衣子氏(厚生中央病院/MSW)…「労災保険と他の社会保険との関係や給付について」
…見落としがちで、しかし重要なテーマについての専門的な研修で、質疑応答を含めて大いに学ぶことができました。
②講師:渡邊修氏(東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリ科/医師)…「事例から高次脳機能障害について学ぶ」
…事例紹介のあと、適切なアドバイスや支援とはどうあるべきか等々について意見交換し、様々な視点から考察できる立場で、当事者やご家族の相談に対応できるよう学び合える研修でした。====(細見みゑ)

●<TKK第3回「理事会」>

1月25日(日)15:00～18:00 TKP 新宿カンファレンスセンター6階会議室
2015年度事業に関する議題を審議した。

○<2015年度 TKK主催「高次脳機能障害 実践的アプローチ講習会」(全3回)>

5月10日・8月23日・12月6日、10:45～17:20、東京慈恵会医科大学西新橋校1号館3階講堂

○全3回分一括先行申込みについては、受付期間は3月8日～3月22日で終了しました。

○第1回 5月10日(日)、4月5日～4月12日の申込みは定員に達しましたので終了しました。

- ① 講師: 舘野歩氏(東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科/医師)、
- ② 山口加代子氏(横浜総合リハビリセンター/臨床心理士)、
- ③ 石川篤氏((東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリ科/作業療法士)、
- ④ 森戸崇行氏(千葉県千葉リハビリセンター地域連携部相談室/ソーシャルワーカー)

○第2回 8月23日(日)、申込み受付期間は7月19日～7月26日

- ① 講師:片桐伯真氏(聖隷三方原病院リハビリ科/医師)、
- ② 大塚恵美子氏(千葉リハビリセンター高次脳機能障害支援センター/臨床心理士)、
- ③ 大貫正男氏(成年後見センターリーガルサポート/司法書士)、
- ④ 加藤俊宏氏(NPO 法人笑い太鼓高次脳機能障害者支援センター)

○第3回12月6日(日)、申込み受付期間は11月1日～11月8日

- ① 講師:渡邊修氏(東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリ科/医師)、
- ② 野々垣睦美氏(NPO 法人脳外傷友の会ナナクラブハウスすてっぷなな/作業療法士)、
- ③ 柳沢朋秀氏(国立リハビリセンター/障害者職業カウンセラー)、
- ④ 半田理恵子氏(夢のみずうみ村新樹苑/東京言語聴覚士会/語聴覚士)

各回のプログラム(講演テーマなど)、申込み期間や方法などの詳細については、以下のサイトでご確認ください。

TKK 情報専用サイト <http://www7b.biglobe.ne.jp/~brain-link/tkk.html>

TKK ホームページ http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=100

お問い合わせは、東京高次脳機能障害協議会事務局03-3408-3798へ

*** 第2回、第3回の受講をご希望の方はお早目に tkkapproach@gmail.com 宛に、必要事項をご入力の上、送信してください。

○<2015年度「医療及び家族相談交流会」>

http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=91

- 第1回6月14日(日)慈恵医大附属第三病院
- 第2回7月12日(日)東京都心身障害者福祉センター
- 第3回9月13日(日)慈恵医大附属第三病院
- 第4回10月18日(日)東京都心身障害者福祉センター
- 第5回11月15日(日)慈恵医大附属第三病院
- 第6回2月14日(日)東京都心身障害者福祉センター
- 第7回2月22日(日)慈恵医大附属第三病院

時間:いずれも13:30～16:30

定員:各回とも相談件数4件以内 費用:無料、どの回も医師及びTKK家族が相談員を務めます。

申込先電話:090-1734-5114、Email:kurakata@brain-tkk.com (いずれも担当は:蔵方)

【2】関連団体の活動

●<社のハーモニー♪設立5周年記念> “NYから演奏家をお招きしての音楽会”

1月25日(日)午後、希望の家深大寺

ピアノ ジャズ演奏/鈴木琴栄(音楽療法士)、ヴァイオリン/小口通子、

ヴィオラ/小俣由佳(日フィル会員)、メゾソプラノ/森薫子(二期会準会員) 河合美麻(ピアノ伴奏)

==== 80名超のご参加を頂きました。また、その多くは一般市民の方たちでした。

素晴らしい演奏が終わってからも、演奏家の方々と市民の皆様との交流も広がりました。そして、おしゃべりやケーキとお茶を味わいながら、なごやかな懇談のひと時を過ごすことができました。

高次脳機能障害当事者の方たちも会の運営を盛りあげて下さいました。高次脳機能障害の理解を広げ、地域で福祉と文化が繋がる活動を、これからも続けて参ります。==== (伊地山敏)

●<高次脳機能障害者実践ネットワーク主催「第8回事例検討会」>

3月1日(日) 13:00～16:00 港区ありすいきいきプラザ 3階集会室

==== 1件の事例を、グループに分かれて意見交換し検討致しました。夢に向かって将来の自分を探し努力していたにも関わらず、その途中で交通事故被害に遭い、脳外傷で高次脳機能障害を持ってしまったため挫折。失意の中で苦しむ若い当事者への社会復帰についての事例検討です。医療・福祉・自治体・施設・当事者や家族団体等の様々な視点から、生活及び就労支援に役立つ、有意義なアドバイスや意見交換が行われました。====(細見みゑ)

●<学習会「高次脳機能障害・失語症ってなあに？」>

3月12日(木)午後、立川女性総合センターアイム5F 第三学習室

主催:スマイル立川、立川失語友の会、協力:村山医療センター

講師:上村修氏(村山医療センター地域医療連携室長、リハビリテーション科医長)

==== 当地区の支援拠点である村山医療センターの植村医師による「高次脳機能障害ってな〜に?」「失語症ってな〜に?」と題して、一般の方向けとしては立川市では初めての講演会を開催しました。

スマイル立川の家族会としてユルユルと活動を始めておりました。いつか講演会をしたいと言う熱い思いはありましたが、そのような力は全く無く活動らしき事も出来ずにおりました。

そのような時に立川社協さん、包括さん、市民活動センターさんの皆さまが、ご協力を申し出て下さり全ての準備と広報をして下さいました。その甲斐あって、65席の会場に90名あまりの方がご参加いただきました。何より嬉しかったのは、立川市福祉課から3名もの方がご参加して下さいました事です。お陰で家族会の定例会も行う事が出来るようになりました。====(志村孝子)

○杜のマルシェ♪(今年で5回目)

日時:2015年6月5~7日

場所:深大寺曼珠苑ギャラリー(深大寺から徒歩数分)

主催:杜のハーモニー♪

会員&地域の皆様の手作り品展示会・販売会

【3】行政等の活動

* *

●<港区高次脳機能障害理解促進事業:第2回「高次脳機能障害講演会・医療及び家族相談会」>

2月8日(日)午後、港区高輪区民センター1階集会室(高輪コミュニティぷらざ)

港区主催、港区委託事業者:特定非営利活動法人東京高次脳機能障害協議会(TKK)、協力:「みなと高次脳」

==== 本講演会は、①基調講演として渡邊修氏(慈恵第三病院リハビリ科/教授/医師)「高次脳機能障害が疑われるとき」…高次脳機能障害とリハビリの基本、及び退院後の生活及び就労支援などあきらめない支援について、いつもの様に面白く分かり易く解説していただきました。②講演として塚田賢信氏(NPO 法人和音/副代表/ST)「言語障害者の社会参加を支援する[失語症パートナー]」…言語障害者(失語症)パートナーとして社会参加を支えるボランティア活動と支援者の方々の貴重なお話を聞かせて頂きました。③家族の声として蔵方律子氏(TKK 副理事長/りんく代表/当事者家族)「遷延性意識障害と失語症の回復～社会参加への歩み」…遷延性意識障害、失語症を克服して社会参加するまでのご主人への看護やリハビリ、生き方についての感動的なお話でした。

また、「医療及び家族相談会」は、相談支援員に上記講師3人と石川洋平氏(港区精神保健福祉士)の4人で参加者の質疑応答や相談に対応いたしました。以上を通して、高次脳機能障害への理解促進と啓発、及び相談支援の充実を図ることが出来ました。====(細見みゑ)

●<中野区高次脳機能障害啓発セミナー>

2月28日午後、スマイル中野5階会議室

第一部 講演:「NPO 法人足立さくら会のお話」 講師: 瀧脇美沙子氏/足立さくら会代表

第二部 フリートーク

==== 瀧脇美沙子氏から、ご主人さまの看護や退院後の社会参加、そしてNPO 法人として家族会を立ち上げる際の苦労話とそのコツ、会の運営等々について、有意義なお話を聞くことが出来ました。====(細見みゑ)

●<第16回「東京都高次脳機能障害者相談支援体制連携調整委員会」>

3月18日、東京都心身障害者センター

・・・TKK から委員として細見理事長が出席。他に副理事長(今井、蔵方)が傍聴した。・・・

==== 都内の学識経験者、医療・精神保健・教育・就労支援機関、区市町村、関係団体、当事者団体(TKK)などの関係者が委員として招集され、26年度2回目、第16回の連携調整委員会が開催された。

先ずは、(1)平成26年度高次脳機能障害支援普及事業の主要事業実施状況として、①専門的リハビリテーションの充実事業(9圏域)の実施状況、②高次脳機能障害に関する相談実績、③支援ネットワーク構築として区市町村高次脳機能障害者相談支援員連絡会など、④人材育成・広報として高次脳機能障害者相談支援研修会など、⑤高次脳機能障害者就労支援の主な取り組み(就労準備支援プログラム実施状況)、⑥社会生活評価プログラム実施状況、⑦就労準備支援プログラムを終了者の追跡調査、⑧支援ネットワーク構築、⑨「高次脳機能障害者地域支援ハンドブック」の改訂第2版校正中、⑩2014年度版「高次脳機能障害の理解と支援の充実をめざして」のパンフレット発刊、等々について報告された。

次に、(2)平成27年度高次脳機能障害者支援に係る事業として、①高次脳機能障害支援普及事業(都全域)、②専門的リハビリテーションの充実事業(12圏域の二次保健医療圏に都が委託して実施)、③区市町村高次脳機能障害者支援促進事業(区市町村に経費を都が補助)、④高次脳機能障害者緊急相談支援(区市町村に経費を都が補助)、等々の「案」が報告された。

委員会の最後にTKKは、都心障センターと慈恵第3病院協力のもと実施してきた(27年度も協力継続が決まっている)、TKK主催、26年度高次脳機能障害者と家族のための「医療及び家族相談会」の実施状況について報告した。また、最近特に憂慮していることがあるので、TKKとして次のように要望した。高次脳機能障害者が果たして1人暮らしができるのかどうか、1人暮らしをすとしたらどのような支援が必要なのかを含めて、高次脳機能障害者の生活のしづらさ(障害程度)や障害理解については、まだまだ地域の医療・福祉・自治体・支援関係機関の末端まで行き届いていない。身体障害に特化した軽い評価になっていることが多く、障害者手帳、年金、福祉手当、給付や、介護保険法及び障害者総合支援法によるサービスなどでも、不当な等級になったり、不適切な支援につながる場合が未だに続いている。早急な障害理解の促進と改善を要望した。====(細見みゑ)

●<第3回 北多摩南部医療圏「高次脳機能障害地域支援研修会」>

3月29日(日)午後、東京慈恵会医科大学医学部看護科1F 大講堂

講演:「高次脳機能障害を支える制度と社会資源」 鈴木亜都佐氏(慈恵第三病院ソーシャルワーカー)

報告:「地域で活動する調布市内の5事業所の報告」

事例検討:地域連携事例検討 大熊諒氏(慈恵第三病院リハビリテーション科作業療法士)

==== 鈴木亜都佐氏(慈恵第三病院ソーシャルワーカー)のご講演は、大変詳細で、そこが知りたかったのだと思う箇所を沢山取り上げて頂きましたので、当事者と家族や支援者達の「制度と社会資源バイブル(基礎編)」になると思いました。講演資料コピーの許可も頂きましたので、増刷して慈恵第三病院相談支援室に置いておくことにしました(ご覧になりたい方、欲しい方は相談支援室へどうぞ)。また、地域で活動する調布市内の5事業所(アイビー、めじろ作業所、ちょうふだぞう、ライズ、調布ドリーム)の報告として、それぞれ方々からプレゼンテーション

がありました。当地域は確かな連携と実践がなされていると感服した次第です。 === (細見みゑ)

○＜平成 27 年度 港区高次脳機能障害理解促進事業「高次脳機能障害 相談会」＞

27 年 4 月～3 月 毎月第 3 木曜日 13:30～16:30

港区立障害保健福祉センター(ヒューマンプラザ) 6階 相談室

(障害や支援の専門家と苦難を乗り越えてきた当事者家族と一緒に相談に応じ、気軽にお話ができる場を提供)

申込先: 港区障害者福祉課精神障害者担当 (TEL:03-3578-2457)

港区委託事業者: 特定非営利活動法人東京高次脳機能障害協議会 (TKK)

協力: 高次脳機能障がい者の未来を紡ぐ会「みなと高次脳」

【4】特集:この 1 年の活動を振り返って

ここでは、TKK 加盟の 25 団体(平成 25 年 7 月現在)のうち 3 団体ずつを順次ご紹介しています。

(vol.25, vol.26, vol.27, vol.28 の掲載団体は HP メルマガバックナンバーでご覧いただけます)

<http://www.brain-tkk.com/tkk/index.php>

杉並高次脳機能障害家族会「クローバー」 代表:山田 有美

私たちの家族会は、3 年ほど前に、杉並区の高次脳機能障害の方とその家族の方々が、経験や情報を共有し、共に支え合い、励まし合いながら、より豊かな日常生活をめざしていくために立ち上げられました。メンバーは、現在でも 30 家族ほどの小さな会です。

当事者事者の構成は 20 歳代から 70 歳代で、40 代から 70 代が全体の 80%以上、また発症原因は、脳血管性障害の方が約 60%、脳外傷(交通事故を含む)が 30%、その他(脳炎・脳腫瘍など)が 10%。発症から 5 年未満の方が 56%と多い一方、20 年以上の方も 20%弱と少なくありません。障害の表れ方も多様ですが、高次脳機能障害者の家族に共通する経験や悩みを語り合う定例会(クローバー会)を年 3 回、また、杉並区障害者生活支援課地域生活支援担当係と共催の高次脳機能障害者家族交流会を年 3 回、開催しております。

昨年度のクローバー会では、3 回のクローバー会は、4 月は、総会と昼食会(お寿司屋)、散歩(大宮八幡神社や杉並区郷土博物館周辺)。昼食会では、おいしいお寿司に舌鼓を打ち、散歩では、うっそうとした神社の竹藪にタケノコを発見したり、のんびり歩きながら日常の愚痴をあれこれこぼし合ったり・・・と楽しい会でした。8 月はボーリングと昼食会(イタリア料理?)。続けてストライクを出す当事者やガーター続きの家族など笑いが絶えませんでした。12 月のクリスマス会は、二胡のしみじみとした演奏を聴き、お茶を飲みながらみんなで 1 年を振り返り、ビンゴゲームで楽しみました。

また、家族交流会は、6 月と 10 月と 2 月に、杉並区内の高次脳機能障害者のご家族と家族会メンバーの交流が行われました。

そんなこんなで 1 年が過ぎ、また新しい年度が始まります。

一般社団法人 交通事故被害者家族ネットワーク 共同代表:佐藤則男・児玉正弘

「2014 年度の活動を振り返って」

交通事故被害者救済の支援活動は、月に 1 回ないしは 2 回のペースで計 20 回を数えました。

活動内容は、高次脳機能障害、遷延性意識障害に詳しい医師、大学の先生の講演、損害の回復にご尽力いただいている交通事故・弁護士全国ネットワークの代表弁護士古田兼裕氏はじめ同ネットワークの弁護士方の無料法律相談会等ベースに仙台、埼玉、千葉、東京、横浜、岐阜、大阪、泉大津、岡山などで定期的実施。

特記すべきは、27年2月21日実施の第2回「医療ソーシャルワーカーの皆様向け講演会」です。茨城県・群馬県ソーシャルワーカー協会、栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川の各医療社会事業協会の後援をいただき実施。趣旨は、医療の現場で交通事故等により重篤な被害を受けた方、或はそのご家族からの様々な相談に対しどのようなサポートが適切かということをご理解いただきたいということです。

NASVA審議役もご出席され参加者は約80名、内容は①交通事故と社会保険制度 ②治療と健保・労災・自賠責保険 ③労災使用のメリット・休業補償 ④症状固定(高次脳機能障害)その時期 ⑤自賠責保険の被害者請求 ⑥急性期病院で重い方の転院先について ⑦生活保護者の点 ⑧家族会との関わり ⑨相談費用は無料。安仁屋MSWと古田弁護士の座談会、参加者との質疑応答形式で実施。

実際、MSWの方々が大変ご苦労されていることが明らかになりました。

現在、当会へ徐々に相談が入ってきています。今後相談数が増えてくると予想されますが、当会の社会事業の一環として専門の相談員、弁護士ネットワークの先生方のご協力により様々なご相談に対しワンストップで一生涯懸命支援をさせていただく所存です。

高次脳機能障害者と家族の会 代表:今井雅子

1998年7月、都立病院のソーシャル・ワーカーのグループワーク(自主業務研究会)を基にして設立しました。以後、高次脳機能障害者の家族が、社会福祉や障害者福祉法によるサービスを受けられない矛盾した状況の改善と障害者としての社会的認知を要望し、行政への働きかけ、啓発活動を続けていました。その後TKK(東京高次脳機能障害協議会)に加盟してからは、TKKとして政策提言を行っています。

当事者・家族を支えるために、「こーじ通信」を発行したり、ブロック交流会、ピアカウンセリングを行い、懇談会、レクリエーションなどの交流会で親睦を深め、情報を交換しています。10周年には『こーじ便利帳』を発行しましたが、未だに増刷を重ねています。

講演会も年に2、3回開催していますが、新しい会員には高次脳機能障害とは、という基本的な話も必要であり、会員歴の長い方にとっては「もうそんなことは知っている」という状態で、毎回テーマを決めるのに苦労しています。

しかし情勢は変化してきており、当事者が若年だったり主婦だったり、家族のあり方も難しくなっています。

これからも当事者・家族達が、心から命が助かって良かった！と思えるよう、活動を続けていきたいと思っています。

以上

